

齊藤蒼思さん（博士前期課程2年）が第38回溶液化学シンポジウムでポスター賞を受賞しました。

平成27年10月21日～23日に高知市文化プラザ カルポート(高知市)において開催された第38回溶液化学シンポジウムにおいて、大学院自然科学研究科数理物質科学専攻化学コース・博士前期課程2年の齊藤蒼思さんがポスター賞を受賞しました。

ある種のリチウム塩と鎖状ポリエーテルであるグライム類の等量混合物は、室温で液体であり、溶媒和イオン液体と呼ばれ、次世代リチウム-硫黄電池電解液として期待されています。液体中のリチウムイオンの局所構造を明らかにできれば、電池性能の向上につながります。しかし、これまで液体中のリチウムイオンの局所構造を調べることは非常に困難でした。齊藤くんは、中性子の散乱がリチウムの同位体によって異なることを利用して中性子回折実験を行い、この結果を分子動力学シミュレーションを用いて解析し、溶媒和イオン液体中のリチウムイオンの局所構造を解明することに成功しました。

発表者：齊藤 蒼思 (新潟大学大学院自然科学研究科・博士前期課程2年)
(指導教員：梅林 泰宏 教授)

演題名：同位体置換中性子回折法および MD シミュレーションによる [Li(G4)][TFSA] 溶媒和イオン液体中の Li^+ イオン局所構造

Study on local structure of Li^+ ion in [Li(G4)][TFSA] solvate ionic liquid revealed by Neutron diffraction with isotopic substitution and MD simulation

リンク：<http://solnchem.jp/sscj/038.html>

